



THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

*Promoting Understanding and Cooperation in U.S.-Asia Relations since 1983*

ニュースリリース

2013年3月19日

## 5名の新たな米国連邦政府職員を第18期マンスフィールドフェローに選出

(ワシントン DC) モーリーンアンド・マイク・マンスフィールド財団は、残る5名が新たにマンスフィールドフェロー第18期生として選ばれたことを発表した。これで10名全てのフェローが選出されたことになる。米国政府内で高度な日本専門家を養成することを目的として、米国議会により1994年に創設されたマイク・マンスフィールドフェローシップは、この第18期から、10名のフェローが日本で1年間研修を行うプログラムへと再編成された。5名の18期生は1月に決定された。今回新たに選出された5名の米国連邦政府職員は以下の通り：

ユリ・アン・アーサー： 米国商務省商務官/国際貿易専門

マイケル・ボサック： 米国空軍 大尉/主任

キンバリー・コニアム： 米国国務省 外交官

ジャレド・パズレー： 米国空軍 C-130 教官パイロット/日本エクスチェンジ・オフィサー

ポール・サウルスキ： 米国証券取引委員会 上級顧問

全てのフェローは日本でのプログラムを今年7月から開始する予定。石川県で7週間ホームステイと日本語学習をした後、日本の省庁で10ヵ月の研修を行う。研修では自身の専門に関連する分野で日本の官僚と共に働く。これにより日本政府の仕組みについて見識を深める他、日本の同僚とプロフェッショナル関係を築いていく。1月に決定された5名の18期生は：フィリップ・ドバーフル（米国空軍少佐）、ヴィクトム・キッチャヤ（米国空軍大尉）、キャサリン・リー（米国食品医薬品局 科学データアナリスト）、ロバート・シェルドン（米中経済安全保障検討委員会 上級政策アナリスト）、ジョナサン・トンプソン（米国国務省 東アジア&グローバル防衛装備品販売 シニアアドバイザー）。

マンスフィールド財団所長のゴードン・フレイクは、「宇宙安全保障、災害救助や国際金融規制問題といった様々な分野において、日米関係の強化に従事している5名の新たなアメリカ政府関係者を加えることにより、18期のメンバーが全員揃ったことを喜ばしく思う」と述べている。

「特に注目に値する点は、18期のフェローの中に、このフェローシップ・プログラムで初の海外駐在外交官と証券取引委員会からのフェローを選出した点である。これは、アメリカ政府職員に、アメリカの対アジア政策で重要な領域において、極めて実用的な日本に関する理解を提供するという、このフェローシップ・プログラムの重要性を改めて強調している。」とゴードン・フレイクは続けた。



## THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

*Promoting Understanding and Cooperation in U.S.-Asia Relations since 1983*

24の委員会や省等のアメリカ政府の機関を代表する110人のフェローが、1994年にアメリカ議会によって設立されたこのマイク・マンスフィールドフェローシップ・プログラムに参加してきた。このプログラムはアメリカ国務省教育文化局を通し、政府歳出予算によってモーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団によって運営されている。

モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団は、米国歳入法 501 (c) 3 条によって認可された民間の非営利団体で、米国とアジア諸国間の理解を深め、関係を促進することを目的としており、今年で 30 周年を迎える。財団は、モンタナ州出身の連邦議会議員、また上院院内総務として、さらに駐日米国大使として、20 世紀の国内及び国際的な主要問題への取り組みにおいて極めて重要な役割を果たし、優れた政治家、外交官であったマイク・マンスフィールド（1903～2001）の功績を記念して 1983 年に設立された。マイク・マンスフィールド元大使とモーリーン大使夫人の米国・アジア関係に対する考えやビジョンは、米国とアジア諸国のリーダー間のネットワーク構築、公共政策に影響を与える重要課題の調査研究、アジア諸国およびアジアの人々に対する認識の向上を目的とした財団の交流、ダイアログ、研究、教育プログラムを通して実現されている。財団はワシントン DC、東京、モンタナ州ミズウラに事務所がある。